

# 平成 30(2018)年さけます来遊状況(第 3 報:10/31 現在)

## 4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 北海道の 10 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4 年魚（2014 年級）は前年を大きく上回っているが、5 年魚（2013 年級）は 1994 年以降で一番少ない
- 北海道の沿岸漁獲の平均重量は 3.03kg で、1989 年以降で最も小さく、主要河川に回帰した 4 年魚の平均尾叉長は、近年では 2012 年に次いで小さい

### ・サケの年齢組成

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、10 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2014 年級）が全体の 78%を占め、4 年魚の割合は 1994 年以降で一番高く、逆に 5 年魚の割合が一番低くなっています。4 年魚の来遊数は前年同期の 233%と前年を大きく上回っていますが、5 年魚は前年同期の 48%と下回っており、1994 年以降の平均との比較では、4 年魚 79%、5 年魚 17%と、5 年魚は 1994 年以降で一番少ない状況です。また、3 年魚は前年同期の 75%、1994 年以降の平均の 95%となっています（図 1）。

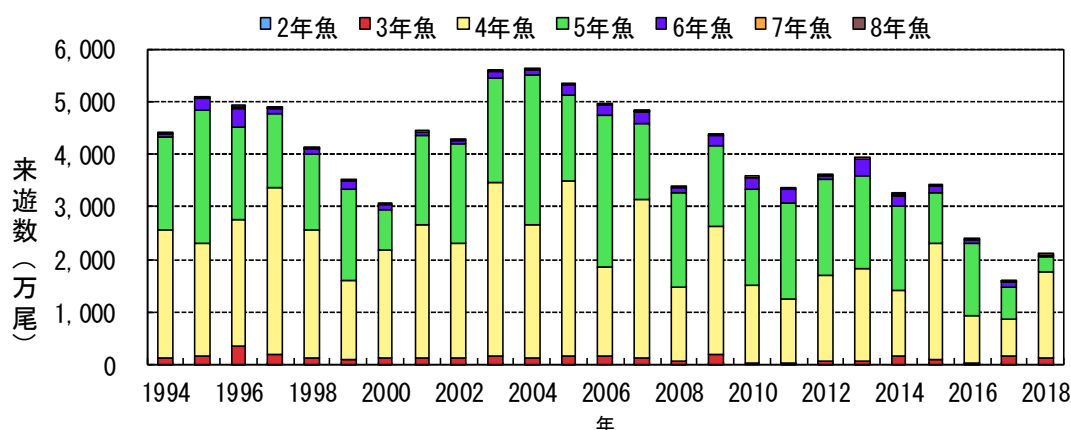


図 1. 10 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の 5 年魚である 2013 年級は 5 年魚までの来遊数（2～5 年魚の来遊数）で比べた場合、1992 年級以降で一番少なくなっています。2013 年級は昨年 4 年魚での回帰も少なかったのですが、5 年魚での回帰はさらに少ない状況です。一方、4 年魚である 2014 年級は 4 年魚までの来遊数（2～4 年魚の来遊数）で比べた場合、1992 年級以降の平均の 82%の水準で、少ない方から 9 番目となっています（図 2）。

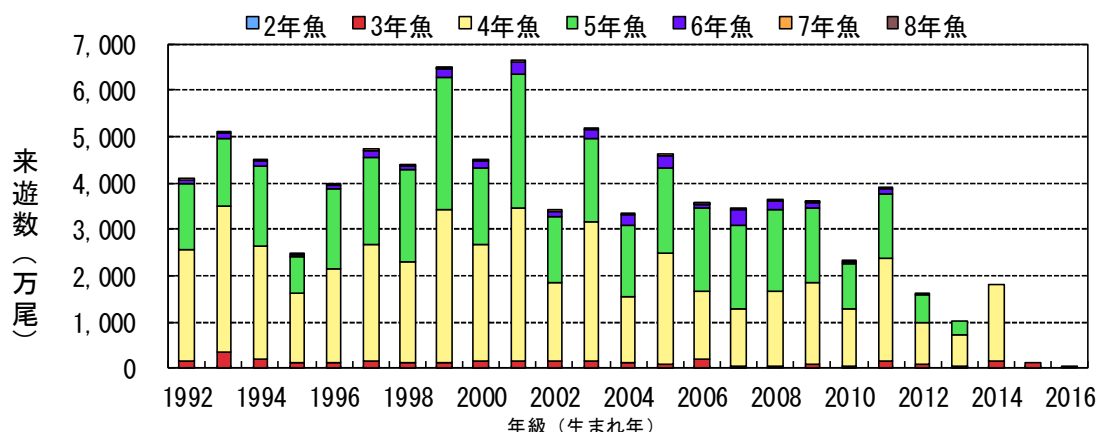


図 2. 10 月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）。

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が全体の80%を占め、前年同期の352%と前年を上回っていますが、5年魚は前年同期の49%、1994年以降の平均の10%にとどまり、1994年以降で一番少なく、5年魚の少なさが顕著です。なお、3年魚は前年同期の84%、1994年以降の平均の83%となっています（図3）。

日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、4年魚が全体の76%を占め、5年魚の割合は16%にとどまり、3年魚の割合は6%となっています。4年魚は前年同期の189%、1994年以降の平均の103%と前年と平年を上回っていますが、5年魚は前年同期の48%、1994年以降の平均の25%と、1994年以降で一番少なくなっています。また、3年魚は前年同期の69%、1994年以降の平均の107%となっています（図4）。

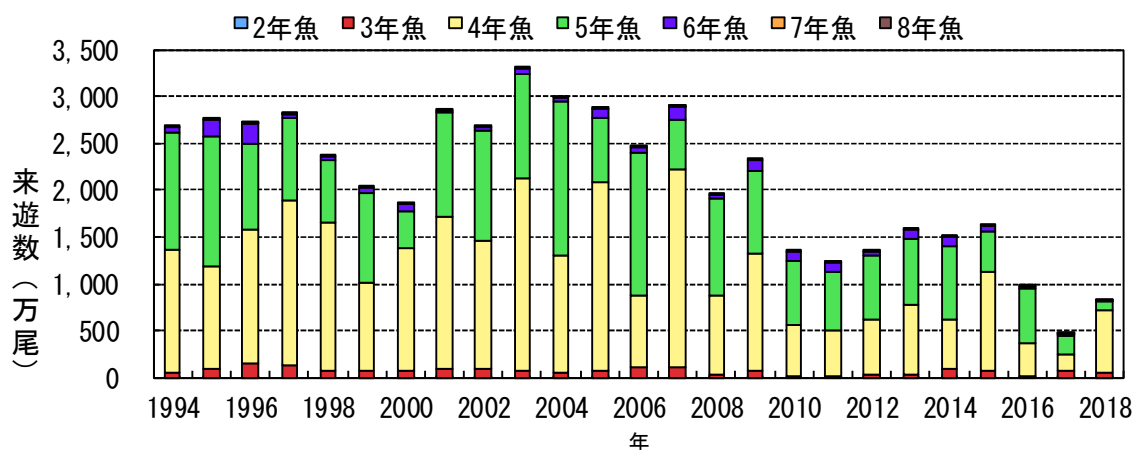


図3. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

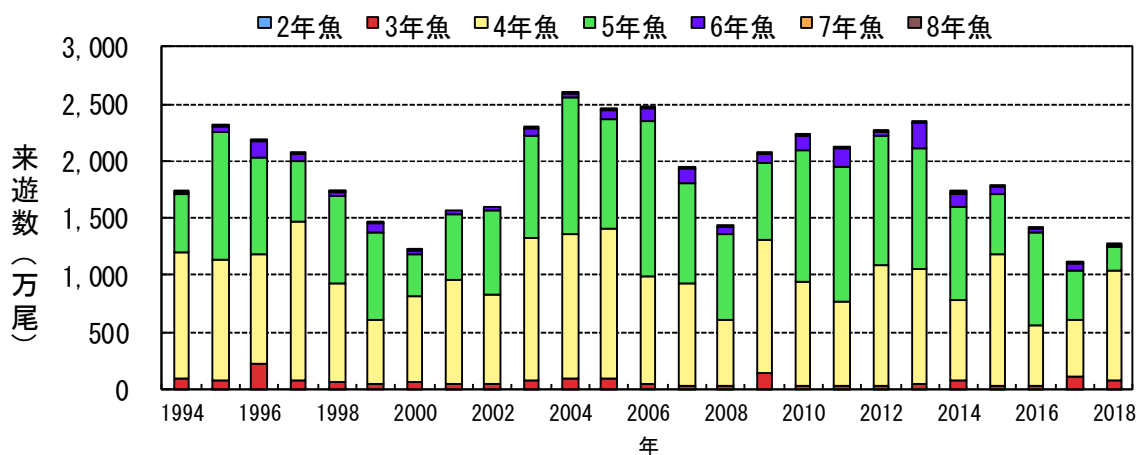


図4. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における10月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.03kgであり、前年同期（3.45kg）の88%と大幅に減少し、1989年以降で最も小さくなっています（図5）。

北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は、前年に比べ3~4cm小さくなっており、近年では2012年に次ぐ小ささになっています（図6）。

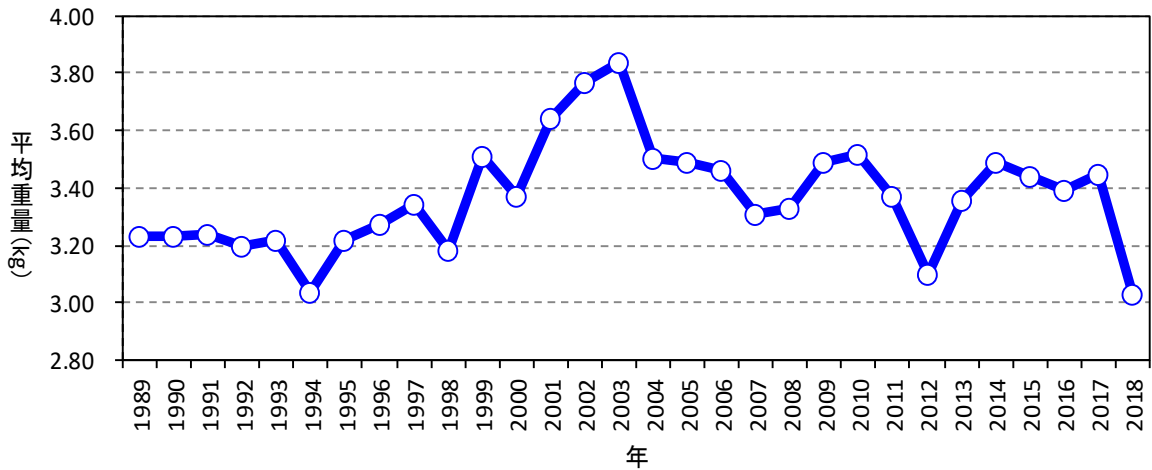


図5. 10月末時点のサケ平均重量（北海道）。

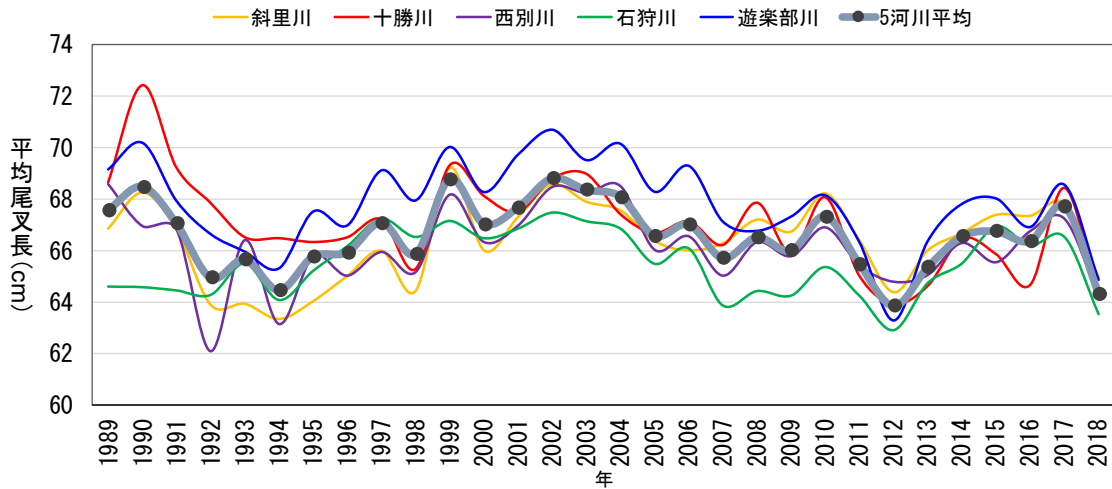


図6. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚（雌雄込み）の平均尾叉長。